

ボッシュ株式会社 電動工具事業部

ホームページ: <http://www.bosch.co.jp>
〒150-8360 東京都渋谷区渋谷 3-6-7

コールセンターフリーコール

0120-345-762

(土・日・祝日を除く、午前9:00~午後5:30)

* 携帯電話からお掛けのお客様は、TEL. 03-5485-6161
をご利用ください。コールセンターフリーコールのご利用
はできませんのでご了承ください。



1 609 92A 4EG (2019.04)

- 本取扱説明書に記載されている、日本仕様の能力・型番などは、外国語の印刷物とは異なる場合があります。
- 本製品は改良のため、予告なく仕様等を変更する場合があります。
- 製品のカタログ請求、その他ご不明な点がございましたら、お買い求めになった販売店または弊社までお問い合わせください。

コードレスディスクグラインダー GWS 18V-10 シリーズ



取扱説明書

このたびは、弊社コードレスディスクグラインダーをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

- ご使用になる前に、この『取扱説明書』をよくお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、この『取扱説明書』を大切に保管してください。わからないことが起きたときは、必ず読み返してください。
- 充電については、『充電器の取扱説明書』を併せてお読みください。



目次

●安全上のご注意

警告表示の区分	2
コードレス工具全般についての注意事項	2
コードレスディスクグラインダーについての注意事項	9
キックバックについての注意事項	18
砥石切断をするときに さらに守っていただきたい注意事項	19
ワイヤブラシで作業するときに 守っていただきたい注意事項	21
サンディングディスクで作業するときに 守っていただきたい注意事項	21
充電器についての注意事項	22

●リサイクルのために

使用済みバッテリーのリサイクルにご協力ください	25
-------------------------	----

●本製品について

用途	26
標準付属品	27
各部の名称	28
仕様	30

●使い方

バッテリーを準備する	32
作業前の準備をする	35
作業する	51
ギアハウジングの角度を調節する	63

●困ったときは

故障かな?と思ったら	64
修理を依頼するときは	65

●お手入れと保管

クリーニング	66
保管	66

ご安全上
注意の

のリサイク
ルのため
に

本製品
について

使用
方法

困った
ときは

お手入れ
と保管

安全上のご注意

ご安全 注意の

- ◆ 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐため、次に述べる『安全上のご注意』を必ず守ってください。
- ◆ ご使用前に、この『安全上のご注意』すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- ◆ お読みになった後は、ご使用になる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ◆ 他の人に貸し出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡しください。

警告表示の区分

ご使用上の注意事項は 危険、 警告、 注意 に区分していますが、それぞれ次の意味を表わします。



- ◆ 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が大きい内容のご注意。



- ◆ 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。



- ◆ 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、 注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

コードレス工具全般についての注意事項

ここでは、コードレス工具全般の『安全上のご注意』についてご説明します。今回お買い求めいただいたコードレスディスクグラインダーには、当てはまらない項目も含まれています。

 **危険**

1. 専用のバッテリー以外を使用しないでください。

- ◆ この取扱説明書に記載されているバッテリー以外は充電しないでください。
- ◆ 改造したバッテリー（分解して、セルなどの内蔵部品を交換したバッテリーを含む）を使用しないでください。

ご安全
注意の
意の

工具本体の性能や安全性を損なう恐れがあり、けがや故障、発煙、発火などの原因になります。

2. バッテリーを火中に投入したり、加熱したりしないでください。

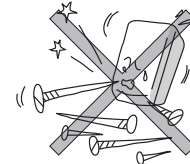


3. バッテリーに釘を刺したり、衝撃を与えたりしないでください。

4. バッテリーを分解したり、改造したりしないでください。

5. バッテリーの端子間を短絡させないでください。

- ◆ バッテリーを金属と一緒に工具箱や釘袋などに保管しないでください。



6. バッテリーを火のそばや炎天下などの高温の場所で充電・使用・保管しないでください。

発熱・発火・破裂の恐れがあります。

7. 専用の充電器以外では、充電しないでください。

- ◆ 他の充電器でバッテリーを充電しないでください。

バッテリーの液漏れや発熱、破裂の恐れがあります。

8. バッテリーを水のような導電体に浸さないでください。
また、バッテリー内部に水のような導電体を浸入させないでください。

◆ 発熱、発火、破裂の恐れがあります。

 警告

1. 正しく充電してください。

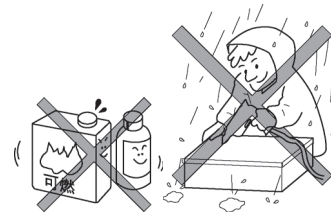
- ◆ 充電器は、定格表示してある電源で使用してください。直流電源やエンジン発電機では、使用しないでください。
- ◆ 温度が0℃未満、または温度が45℃以上ではバッテリーを充電しないでください。
- ◆ バッテリーは、換気の良い場所で充電してください。充電中、バッテリーや充電器を布などで覆わないでください。
- ◆ 充電器を使用しない場合は、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

2. 感電に注意してください。

- ◆ ぬれた手で電源プラグに触れないでください。

3. 作業場の周囲状況も考慮してください。

- ◆ コードレス工具、充電器、バッテリーは、雨中で使用したり、湿った、またはぬれた場所で使用しないでください。
- ◆ 作業場は十分に明るくしてください。
- ◆ 可燃性の液体やガスのある所で使用したり、



4. 保護めがねを使用してください。

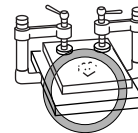
- ◆ 作業時は、保護めがねを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

5. 防音保護具を着用してください。

- ◆ 騒音の大きい作業では、耳栓、耳覆い（イヤマフ）などの防音保護具を着用してください。

6. 加工するものをしっかりと固定してください。

- ◆ 加工するものを固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手でコードレス工具を使用できます。



ご安全
注意の

7. 次の場合は、コードレス工具のスイッチを切り、バッテリーを本体から抜いてください。

- ◆ 使用しない、または修理する場合。
- ◆ 刃物、ビットなどの付属品を交換する場合。
- ◆ その他危険が予想される場合。



8. 不意な始動は避けてください。

- ◆ スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- ◆ バッテリーを差し込む前にスイッチが切れていることを確認してください。

9. 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。


- ◆ この取扱説明書、およびボッシュ電動工具カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものは使用しないでください。

10. バッテリーの液が目に入ったら直ちにきれいな水で十分洗い、医師の治療を受けてください。

11. 使用時間が極端に短くなったバッテリーは使用しないでください。

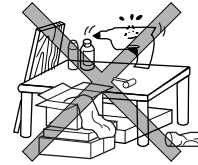
12. ご使用済みのバッテリーは、一般家庭ゴミとして捨てないでください。

捨てられたバッテリーが、ゴミ収集車内などで破壊されてショートし、発火・発煙の原因になる恐れがあります。

 **注 意**

ご安全
注意の

1. **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
ちらかった場所や作業台は、事故の原因となります。



2. **子供や補助を必要とする人、および本機の操作に知識のない人には、絶対に使用させないでください。**

子供や知識のない人が使用すると、事故の原因になります。

◆ この機械で遊ぶことがないように、子供を監視することが望ましい。

3. **使用しない場合は、きちんと保管してください。**

◆ 乾燥した場所で、子供の手の届かない安全な所、または鍵のかかる所に保管してください。

◆ コードレス工具やバッテリーを、温度が 50℃以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の中車内など）に保管しないでください。

4. **無理して使用しないでください。**

◆ 安全に能率よく作業するために、コードレス工具の能力に合った速さで作業してください。

◆ モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。

5. **作業に合ったコードレス工具を使用してください。**

◆ 小型のコードレス工具やアタッチメントは、大型のコードレス工具で行う作業には使用しないでください。

◆ 指定された用途以外に使用しないでください。

6. **きちんとした服装で作業してください。**

◆ だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。

◆ 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。

◆ 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

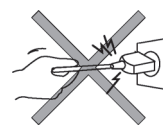


7. コードレス工具は、注意深く手入れをしてください。

- ◆ 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
- ◆ 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- ◆ 充電器のコードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店、またはポッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。
- ◆ 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
- ◆ 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースなどが付かないようにしてください。

8. 充電器のコードを乱暴に扱わないでください。

- ◆ コードを持って充電器を運んだり、コードを引っ張って電源コンセントから抜かないでください。
- ◆ コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ◆ コードが踏まれたり、引っかけられたり、無理な力を受けて損傷することがないように充電する場所に注意してください。



9. 無理な姿勢で作業をしないでください。

- ◆ 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。



10. 調節キーやレンチなどは、必ず取り外してください。

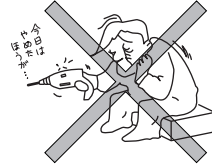
- ◆ スイッチを入れる前に、調節に用いたキーやレンチなどの工具類が取り外されていることを確認してください。

11. 屋外使用に合った延長コードを使用してください。

- ◆ 屋外で充電する場合、キャブタイヤコード、またはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。

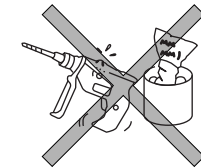
12. 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- ◆ コードレス工具を使用する場合は、取り扱い方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- ◆ 常識を働かせてください。
- ◆ 疲れている場合は、使用しないでください。



13. 損傷した部品がないか点検してください。

- ◆ 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
- ◆ 可動部分の位置調整、および締め付け状態、部品の破損、取り付け状態、その他運転に影響を及ぼすすべての個所に異常がないか確認してください。
- ◆ 電源プラグやコードが損傷した充電器や、落としたり、何らかの損傷を受けた充電器は使用しないでください。
- ◆ 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。
取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。
- ◆ スイッチで始動、および停止操作のできないコードレス工具は、使用しないでください。



14. コードレス工具の修理は、専門店で依頼してください。

- ◆ サービスマン以外の方はコードレス工具、充電器、バッテリーを分解したり、修理・改造は行わないでください。
- ◆ コードレス工具が熱くなったり、異常に気付いたときは、点検・修理に出してください。
- ◆ この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- ◆ 修理は、必ずお買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターにお申し付けください。修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因となります。

この取扱説明書は、大切に保管してください。

コードレスディスクグラインダーについての注意事項

コードレス工具全般の『安全上のご注意』について、前項ではご説明しました。ここでは、コードレスディスクグラインダーをお使いになるうえで、さらに守っていただきたい注意事項についてご説明します。

ご安全
注上
意の



警告

1. 作業の条件・内容を考慮して、目的に合った電動工具を用意し、アクセサリーを選定してください。
 - ◆ 目的に合っていない電動工具の使用は、事故やけがの原因となります。
2. 使用するバッテリーは、取扱説明書に指定してあるものを装着してください。
 - ◆ 指定外のバッテリーを装着すると、コードレス工具本体に支障をきたすばかりでなく、発煙・発火の原因になります。
3. 本機は、磨き作業（ポリッシング作業）には適していません。
 - ◆ コードレス工具の設計上で想定されていない作業を行うと、危険が発生し、けがをする恐れがあります。
4. 本機にBluetooth®送信機が装着されている場合、航空機内・病院内など、無線通信に制限がある場所では、それぞれの指示に従ってください。
他の機器との干渉が起こることがあります。
5. Bluetooth®送信機が装着されているコードレス工具を使用する場合、近くの人や動物に対して影響を与える可能性があります。

6. 作業領域に電線管や水道管、ガス管などが埋設されていないか、適切な探知器で十分確認するか、公益事業者へ連絡をして、助言を求めてください。

- ◆ 埋設物があると、先端工具が触れたとき事故の原因になります。
電気配線との接触は、発火や感電につながる恐れがあります。
ガス配管の損傷は、爆発につながる恐れがあります。
水配管の貫通は、器物破損の原因になります。

7. 取扱説明書に記載されている用途、または能力以上の作業に使用しないでください。特にモーターをロックさせるなどの無理な使用はしないでください。

- ◆ 発煙・発火の原因になります。

8. 疲労していたり、薬・アルコールを服用していたりするときには、使用しないでください。

- ◆ コードレス工具操作中に一瞬でも注意力が低下すると、重大なけがをする危険があります。

9. 保護面や保護めがねなどの保護具を着用してください。必要に応じて、防じんマスクや防音保護具（耳栓など）、滑り止め付き安全靴、ヘルメット、手袋、作業用エプロンを着用してください。

保護めがね : 作業によって生じた破片の飛散から目を守ります

防じんマスク : 作業によって生じた粒子をろ過します

耳 栓 : 騒音による被害を防ぎます(高強度の騒音に長い時間さらされると、難聴の原因となります)

10. 集じん装置が接続できるものは接続して使用してください。集じん機などが接続できる場合には、これらの装置に確実に接続し、正しく使用してください。

- ◆ 作業中に発生する粉じんは、健康を害します。

11. この取扱説明書、およびボッシュカタログに記載されているアクセサリ以外は使用しないでください。また、砥石に合った保護カバーを使用してください。
 - ◆ 指定されたアクセサリ以外は、取り付けられたとしても安全に作業できない恐れがあります。
12. コードレス工具の仕様（外径や厚み、能力）に合ったアクセサリを使用してください。
 - ◆ 仕様に合っていないアクセサリを使用すると、安全に作業できない恐れがあります。
13. 冷却液が必要なアクセサリは使用しないでください。
 - ◆ 水やその他の冷却液を使用すると、感電または感電死の恐れがあります。
14. アクセサリは推奨された用途以外に使用しないでください。例えば、切断砥石の側面で研削しないでください。
 - ◆ 切断砥石は砥石の円周で研削することを目的としたアクセサリのため、砥石に横から力が加わると壊れる恐れがあります。
15. スピンドルのサイズに合ったアクセサリを使用してください。
 - ◆ サイズが合っていないとバランスが取れず、過度に振動してコードレス工具をコントロールできなくなる恐れがあります。
16. 使用する砥石のサイズや形状に合った、損傷していないフランジを使用してください。切断砥石用のフランジは研削砥石用のフランジと異なる場合があります。
 - ◆ 適切なフランジは砥石を支持し、砥石破損の可能性を減らします。
17. 使用する砥石は穴径22mmφのものを使用してください。
 - ◆ 穴径が合っていないと、砥石が外れたりし、けがの原因になります。
18. アクセサリに欠けやヒビ割れ、裂け、摩耗、緩みなどの異常がないことを確認してから使用してください。
 - ◆ 異常があると、アクセサリが破壊し、けがの原因になります。

19. 砥石が損傷している場合は、損傷していない砥石と交換してください。砥石を交換したら、コードレス工具本体を自分や周りの人から離れた位置で持ち、最大回転数で1分間無負荷運転してください。
 - ◆ 交換した砥石が損傷していた場合、この作動により損傷がわかります。
20. 大型の電動工具で使用し、摩耗した砥石を使用しないでください。
 - ◆ 大型の電動工具の砥石は、小さい電動工具の速度に適していないため、破損する恐れがあります。
21. 保護カバーを必ず取り付けて使用してください。
 - ◆ アクセサリー類（砥石など）が破損したとき、けがの原因になります。
22. 保護カバーは、作業者に砥石が最小限見えている最も安全な位置に、確実に取り付けてください。
 - ◆ 保護カバーによって、破損した砥石の破片から作業者を守ったり、衣服に引火するような火花に当たることを防いだりできます。
23. 切断砥石以外の砥石での切断作業はしないでください。
 - ◆ 切断砥石以外の砥石使用は、けがの原因になります。
24. オフセット砥石は、最高使用周速度以上の正規の砥石を取り付け、正しい使用面で研削してください。側面や上面では研削しないでください。
 - ◆ 正規以外の砥石を使用したり、また側面や上面で研削したりすると、砥石が破壊し、けがの原因になります。
25. 使用に問題がないことを確認してください。
取り付けは間違いないか、可動部分が正しくしっかりとセットされているか、各部品の損傷がないか、その他問題がないかチェックしてください。損傷などがあった場合は使用せず、修理をご依頼ください。
 - ◆ 多くの事故は、点検作業を怠ったときに起きています。
 - ◆ 損傷したコードレス工具を使用すると、故障や思わぬ事故の原因になります。

26. 水、研削液などは使用しないでください。
- ◆ 本機は乾式用のため、砥石の破壊によるけがや感電の恐れがあります。
27. 加工材料は確実に固定してください。
- ◆ 確実に固定されていないと、けがの原因になります。
28. 研削砥石や切断砥石を使用する際、研削火花を吸じんしないでください。
- ◆ 吸じんホースやクリーナーが引火し、火災の原因になります。
29. コードレス工具本体を上向きにしたり、万力などで固定して使用しないでください。
- ◆ 砥石やダイヤモンドホイールが破壊したとき、けがの原因になります。
30. 意図せず作動開始しないよう、気をつけてください。必ずスイッチが「切」になっていることを確かめた上で、バッテリーを取り付けたり、コードレス工具を持ち上げたりしてください。
- ◆ スイッチが“入”状態でコードレス工具に通電したりスイッチ部分に指が触れたりすると、事故の原因になります。
31. 作業中は、コードレス工具本体を確実に保持してください。特に始動時は注意してください。
- ◆ 確実に保持していないと、振り回されたりし、けがの原因になります。
32. ジグザグに切断したり、コードレス工具本体をこじったりしないでください。
- ◆ 強い反発力が生じたりし、けがの原因になります。
33. 雨中での作業は行わないでください。また、コードレス工具を雨ざらしにしたり、ぬれた場所に置いたりしないでください。
- ◆ 本体に水が入ると、感電の恐れがあります。
34. 可燃物の近くでコードレス工具を使用しないでください。
- ◆ 火花で可燃物が発火する恐れがあります。

35. 電線が通っているような場所で作業するときは、必ずハンドルの絶縁されたグリップ面でコードレス工具を保持してください。
- ◆ アクセサリーが通電している電線に接触してコードレス工具の金属に電気が流れると、感電する恐れがあります。
36. 回転するアクセサリー（砥石など）に触れないようにしてください。コードレス工具がコントロールできなくなったとき、コードレス工具に巻き込まれたりする恐れがあります。
- ◆ 手や腕が回転するアクセサリーの中へ引き込まれる恐れがあります。
37. 作業中にパイプ、ラジエーター、レンジ、冷蔵庫など、接地処理された媒体と体が接触するのを避けてください。
- ◆ 身体が接触すると、感電の恐れがあります。
38. 作業中は、アクセサリー（砥石など）や切りくずなどに手や顔などを近づけないでください。
- ◆ けがの原因になります。
39. 作業中は、関係者以外の人や子供を近づけないでください。
- ◆ 気が散ると集中できなくなります。
40. 研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。
- ◆ 火災ややけどの原因になります。
41. 作業中、機械の調子が悪かったり、異常音がしたときは直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼してください。
- ◆ そのまま使用していると、けがの原因になります。
42. 誤って落としたり、ぶつけたときは、アクセサリー（砥石など）やコードレス工具などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
- ◆ 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

43. 周囲の人を作業場から安全な距離だけ離してください。作業場に入る人は必ず保護具を着用してください。
- ◆ 作業付近から材料や破損したアクセサリーの破片が飛散したとき、けがをする恐れがあります。
44. フル充電されたバッテリーを複数個続けて使用する作業では、コードレス工具本体が冷めるための時間を設けてください。
- ◆ 複数個による連続作業は、コードレス工具本体に支障をきたすばかりでなく、コードレス工具本体の温度を上昇させて低温やけどをする恐れがあります。
45. 損傷したバッテリーを使用したり、不適切な使い方をしたりしないでください。バッテリーから蒸気が発生する場合があります。
- 蒸気が発生したときは、直ちに周囲を換気し、医者の診断を受けてください。
- ◆ 蒸気は呼吸器を刺激する恐れがあります。
46. バッテリーを乱暴に扱うと液漏れが発生する場合があります。その場合、直接手で触れないでください。誤って触れた場合は水で十分洗い流してください。バッテリーの液が目に入った場合、直ちにきれいな水で十分洗い、医師の治療を受けてください。
- ◆ バッテリーから漏れた液は炎症や火傷をもたらす恐れがあります。
47. 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、調整・付属品の交換・保管をするときは、必ずコードレス工具本体からバッテリーを取り外してください。
- ◆ バッテリーを取り付けたままにすると、けがの原因になります。
48. 「メインスイッチ」を“入”にしたまま、コードレス工具を持ち運ばないでください。
- ◆ 回転している先端工具が思いがけず身体に当たると、衣服に引っ掛かり、身体が引き込まれる恐れがあります。

49. 先端工具が完全に停止するまでは、コードレス工具を置かないでください。

- ◆ 先端工具が回転していると、表面に引っ掛かり、コードレス工具が引っ張られることがあります。

50. 鉛コーティングしてある作業材料やある種の木材、鋳物や金属への作業から発生する粉じんは、健康に悪影響を与える恐れがあります。作業者や見学者が粉じんを触ったり吸い込んだりすると、アレルギー反応、あるいは呼吸器感染症を引き起こす可能性があります。

特に桤材やブナ材から出る粉じん、木材処理添加物(クロム酸、防腐剤)は発がん性があると考えられています。

アスベストを含む材料への作業は、専門知識のある方にのみ許されています。

- ・ できる限り、材料に合った吸じん装置を使用してください。
- ・ 作業場所の換気に注意してください。
- ・ DS2クラス以上のフィルター付き防じんマスクの着用をお勧めします。

- ◆ 作業場で粉じんの堆積は避けてください。容易に発火する恐れがあります。

51. 使用しないときは、子供の手の届かない安全な場所に保管してください。また、コードレス工具取り扱いや手順に不慣れな人には操作させないでください。

- ◆ 教育を受けていない人の操作は大変危険です。

52. バッテリーを開けないでください。

- ◆ 短絡の恐れがあります。

53. バッテリーは、釘やドライバーなど、尖ったものや外からの強い力で傷つく場合があります。

- ◆ 内部で短絡してバッテリーが焼けたり、煙を出したり、破裂、オーバーヒートする危険があります。

54. バッテリーを火のそばや炎天下などの高温の場所や水気・湿気のある場所の近くに置かないでください。

- ◆ 発熱・発火・破裂の恐れがあります。

55. 定期的にコードレス工具の通気口を清掃してください。

- ◆ 通気口にほこりなどが蓄積されると、故障や事故の原因になります。

56. [事業者の方へ] 砥石の交換・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

- 関連法令 労働安全衛生法 第59条
労働安全衛生規則 第36条
労働安全特別教育規程 第1条、第2条

ご安全
注意の

注意

1. アクセサリーは、取扱説明書に従って確実に取り付けてください。

- ◆ 確実にないと、外れたりし、けがの原因になります。

2. 新しい砥石を取り付け、はじめてスイッチを入れるときは、回転面から一時身体を避けてください。

- ◆ 砥石が破壊したとき、けがの原因になります。

3. 試運転を励行してください。

試運転時間

砥石交換のとき…3分間以上

作業開始のとき…1分間以上

- ◆ 試運転せずに作業を開始すると、思わぬけがの原因になります。

4. 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。

- ◆ 材料や機体などを落としたときなど、事故の原因になります。

5. 取扱説明書に記載されている用途以外の刃物（丸のこ刃、チップソーなど）での切断作業はしないでください。

6. 作業直後の砥石は高温になりますので、触れないでください。

- ◆ やけどの原因になります。

キックバックについての注意事項

キックバックとは、砥石などが材料に挟まれたり、食い込んだりしたとき、砥石などが突発的に反発し、コードレス工具が抑えきれなくなり、跳ね上がることです。

キックバックは、コードレス工具の誤用や誤った操作手順・作業状況の結果です。

安全上の注意を守ることで、キックバックによるけがなどを避けることができます。

1. サイドハンドルは必ず使用し、コードレス工具をしっかり保持してキックバックの衝撃に耐えられる姿勢をとってください。
 - ◆ コードレス工具をしっかり保持すると、キックバックの衝撃をコントロールすることができます。
2. 回転する砥石のそばに手を置かないでください。
 - ◆ キックバックでコードレス工具が跳ね上がったとき、けがの原因になります。
3. キックバックが起こると、モーターの回転方向とは反対方向にコードレス工具が跳ね上がります。跳ね上がる方向に、体を置かないでください。
4. コーナーや鋭いへりなどを加工するときは、特に注意してください。
 - ◆ コーナーや鋭いへりの加工は、砥石が引っかかったり、キックバックやコントロール不能が発生したりする傾向があります。
5. チェーンソーなど歯のあるアクセサリーを取り付けしないでください。
 - ◆ 歯のあるアクセサリーは、頻繁にキックバックとコントロール不能をもたらします。

砥石切断をするときにさらに守っていただきたい注意事項

1. 切断砥石以外の砥石での切断作業はしないでください。
 - ◆ 切断砥石以外の砥石使用は、けがの原因になります。
2. 切断砥石を使用する場合は、切断砥石用の保護カバーを取り付けてください。
 - ◆ 取り付けないと、切断砥石が破壊したとき、けがの原因になります。
3. 切断砥石が挟み込まれないようにしてください。また、過度の負担を加えたりしないでください。
 - ◆ 過度の負担を加えると、キックバックや砥石破損の原因になります。
4. 一度に深く切り込まないでください。
 - ◆ 砥石に過度の負担を加えると、キックバックや砥石破損の原因になります。
5. 回転している砥石の同一線上または、後ろに体を置かないでください。
 - ◆ キックバックでコードレス工具が後ろに跳ね上がったとき、けがの原因になります。
6. 切断中に切断砥石が食い込んだり、何らかの理由で切断を中断したりするときは、コードレス工具のスイッチを“切”にし、切断砥石の回転が完全に止まるまでコードレス工具を動かさずに保持してください。
 - ◆ 回転させたままコードレス工具本体を持ち上げたり戻したりすると、強い反発力が生じ、けがの原因になります。
7. 切断作業を再開するときは、砥石を材料から離して電源を“入”にし、最高回転に達してから注意して切り口に砥石を入れてください。
8. 板や大きな材料を切断するときは、切断砥石が材料に挟まれてキックバックが起こらないように、台で材料を支えてください。材料は支え方によってたわんだり、曲がったりします。材料の切断個所の近くに台を置いて支えてください。

ご安全
注意の

ご安全
注意の

9. 壁や内部の構造が不明な部分をくりぬくときは、切断砥石が電線管や水道管、ガス管など埋設物に触れないように注意してください。埋設物に切断砥石が触れると、感電・漏電・ガス漏れ事故の原因になります。また、キックバックの原因にもなります。
10. ジグザグに切断したり、コードレス工具本体をこじったりしないでください。
 - ◆ 強い反発力が生じたりし、けがの原因になります。
11. 切断途中で作業を中断する場合は、「メインスイッチ」を切り、回転が完全に止まってからコードレス工具本体を持ち上げてください。
 - ◆ 先端工具を回転させたままコードレス工具本体を持ち上げたり、戻したりすると、強い反発が生じ、けがの原因になります。

ワイヤブラシで作業するときに守っていただきたい注意事項

1. 通常作業時でも、ワイヤブラシのワイヤが抜けて飛び散ることがあるので注意してください。ワイヤブラシに力をかけ過ぎてワイヤに過負荷をかけないでください。
ワイヤブラシのワイヤは、薄い衣服を貫通し、皮膚に突き刺さります。
2. ワイヤブラシの作業で保護カバーを使用する場合、ワイヤホイールやワイヤブラシが保護カバーに当たらないようにしてください。
 - ◆ ワイヤホイールやワイヤブラシは、作業時の負荷や遠心力によって広がる場合があります。

ご安全
注意の

サンディングディスクで作業するときに守っていただきたい注意事項

1. 大きすぎるサンディングディスクを使用しないでください。
 - ◆ サンディングラバーパッドのサイズを超える大きさのサンディングディスクを使用すると、けがをしたり、サンディングラバーパッドが損傷したり、キックバックを引き起こしたりする原因になります。

充電器についての注意事項

ご安全
注意の

ここでは、充電器をお使いになるうえで、さらに守っていただきたい注意事項についてご説明します。

警告

1. 充電器は、定格表示してある電源で使用してください。直流電源やエンジン発電機では、使用しないでください。
2. 電源プラグに合った電源コンセントを使用してください。
電源プラグの改造は、絶対に行わないでください。
アース回路付き充電器の電源プラグには、いかなるアダプターも取り付けしないでください。
 - ◆ 純正電源プラグに適合した電源コンセントを使用しないと、感電の恐れがあります。
3. 子供や補助を必要とする人、および充電器の操作に知識のない人には、絶対に充電器を使用させないでください。
 - ◆ 子供や知識のない人が使用すると、事故の原因になります。
 - ◆ 充電器で遊ぶことがないように、子供を監視することが望ましい。
4. パイプ、ラジエーター、レンジ、冷蔵庫など、接地処理された媒体と身体が接触するのを避けてください。
 - ◆ 身体が接触すると、感電する恐れがあります。
5. 充電器は雨や湿気の多い場所に置かないでください。
 - ◆ 充電器に水が浸入すると、感電の危険が増します。
6. 電源コードは乱暴に扱わないでください。
コードを使って充電器を運んだり、コードを引っ張って電源コンセントから抜いたりしないでください。
また、コードを熱、油、角のとがった場所、また可動部に近づけないでください。
 - ◆ コードが損傷したりもつれたりしていると、感電の恐れがあります。

7. やむを得ず、湿気の多い場所で充電器を使用する場合は、漏電遮断器 (RCD) を設置して給電してください。
 - ◆ 漏電遮断器の設置で、感電する危険が低減されます。
8. 充電器は充電以外の用途に使用しないでください。
9. 使用する前に、充電器本体、ケーブル、および電源プラグに問題がないか確認してください。損傷などあれば、使用せずにお買い求めの販売店または、ボッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。
 - ◆ そのまま使用していると、事故の原因になります。
10. 充電器のバッテリー挿入部分には充電用端子があります。水や金属片などの異物を入れないでください。
11. ラッカー、ペイント、ベンジン、シンナー、ガソリン、可燃性ガス、接着剤などのある場所では充電しないでください。
 - ◆ 爆発や火災の恐れがあります。
12. 充電器を可燃性のある物（例えば紙、織物その他）の上や周辺で使用しないでください。
 - ◆ 充電中の熱で発火する恐れがあります。
13. すべての充電手順を守ってください。指示に従って指定された温度範囲で充電してください。不適切に充電したり、指定された範囲外の温度で充電すると、バッテリーが破損し、火災の危険性が高まります。
14. ボッシュリチウムイオンバッテリーのみを充電してください。バッテリーの電圧は充電器のバッテリー充電電圧と一致する必要があります。
 - ◆ 一致していないと、火災や爆発の危険があります。

15. バッテリーは、換気の良い場所で充電してください。充電中、バッテリーや充電器を布などで覆わないでください。
 - ◆ 充電器を覆うとモーターが過熱して、正しく動作しなくなる恐れがあります。
16. 紙類や布類、畳、カーペット、ビニールなどの上や、綿ぼこりなどほこりの多い場所では充電しないでください。
 - ◆ 火災の恐れがあります。
17. 充電中、異常発熱などの異常に気がついたときは、直ちに電源プラグを電源コンセントから抜き、充電を中止してください。
 - ◆ そのまま充電を続けると発煙、発火、破裂の恐れがあります。
18. 感電に注意してください。
 - ◆ めれた手で電源プラグに触れないでください。
19. 充電器を使用しない場合は、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
20. 充電器は清潔に保ってください。
 - ◆ 汚れると、感電する恐れがあります。
21. 定期的に、柔らかくて清潔で乾燥したブラシを使用して、充電器の通気口を清掃してください。
 - ◆ 通気口にほこりなどが蓄積されると、故障や事故の原因になります。
22. 充電池以外のバッテリー（マンガン乾電池他）は、充電しないでください。

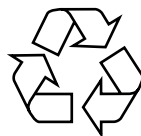
リサイクルのために

使用済みバッテリーのリサイクルにご協力ください

ポツシユは一般社団法人JBRCに加盟し、使用済みコードレス工具用バッテリーのリサイクルを推進しております。恐れ入りますが使用済みのバッテリーは、ポツシユ電動工具取扱店、ポツシユ電動工具サービスセンター、またはJBRCリサイクル協力店へお持ちくださいますようお願いいたします。



【<http://www.jbrc.com>】



Li-ion

のリ
サイ
クル
ため
に

このコードレス工具は、リチウムイオンバッテリーを使用しています。リチウムイオンバッテリーは、リサイクル可能な貴重な資源です。使用済みバッテリーのリサイクル活動にご協力くださいますよう、お願いいたします。ご使用済みのリチウムイオンバッテリーは、コードレス工具本体から取り外し、ショート防止のためバッテリー端子部に絶縁テープを貼ってお出してください。

本製品について

用途

適切な先端工具を使用することで、以下の用途に使用できます。

- ◆ 各種研磨・研削（金属類、石材など）
- ◆ 鉄などのバリ取りおよび仕上げ
- ◆ 塗装面の下地仕上げ、さび落とし、塗装落とし
- ◆ 金属類の切断（全ネジなど）
- ◆ タイル、コンクリートなどの溝入れ

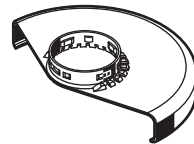
本
製
品
に
つ
い
て

☞ LED ライト⑨の灯りは、作業を行う個所を照らすもので、家庭用の部屋の照明には適しません。

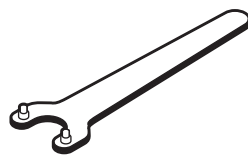
標準付属品



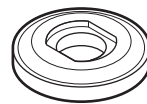
防振サイドハンドル



保護カバー



ピンスパナ



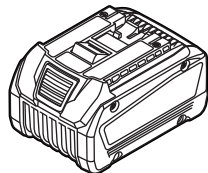
フランジ



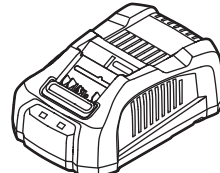
固定ナット



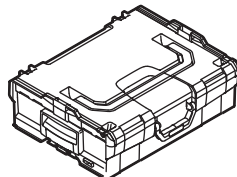
コネクティビティチップ GCY30-4
(SCモデルのみ)



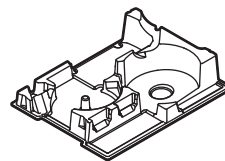
リチウムイオンバッテリー *1
18V 8.0Ah



充電器 *1



キャリングケース
(L-BOXX 136N)



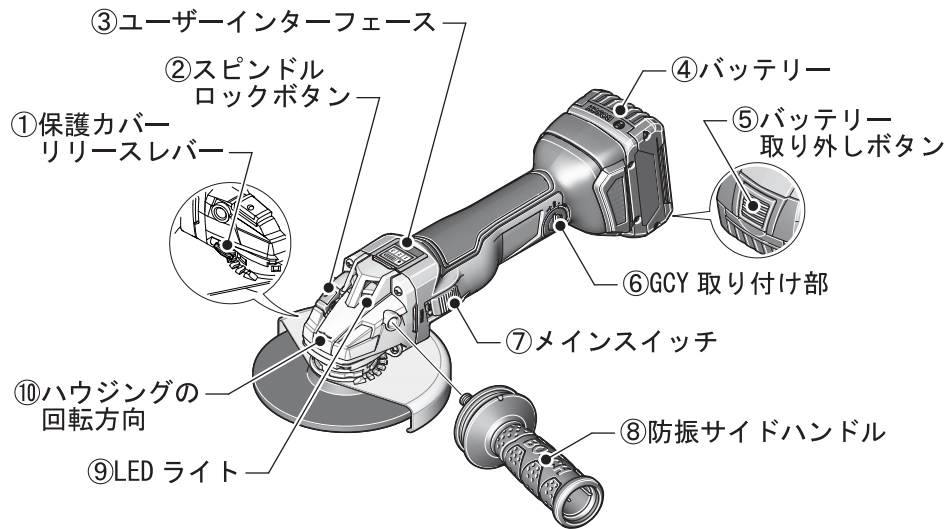
インレイ

◆イラストの形状・詳細は、実物と異なる場合があります。

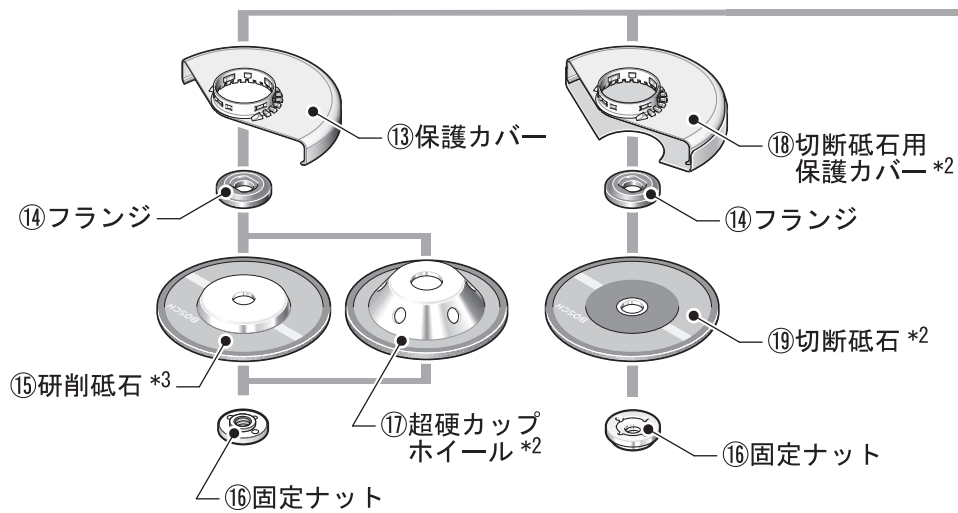
*1 本体のみ仕様には付属されません。

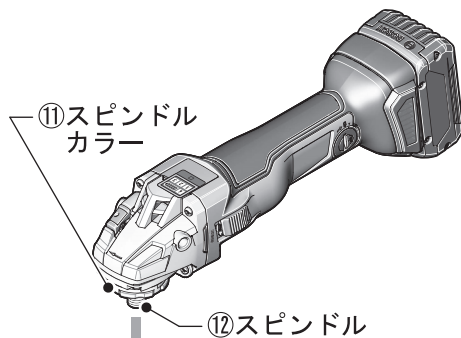
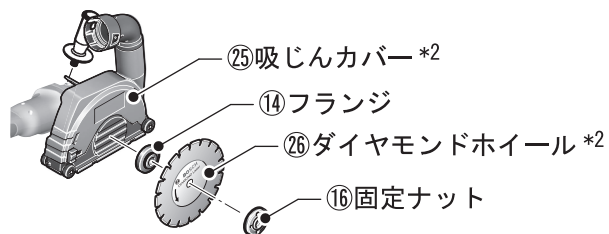
つ本
製
い
品
てに

各部の名称



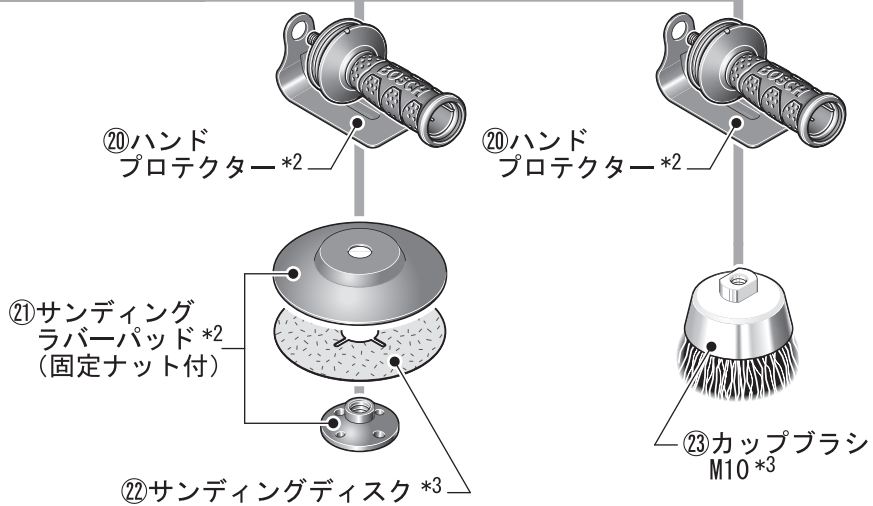
本
製
品
に
つ
き
ま
り
ま
す





*2 別売品
*3 市販品

本
製
品
に
つ
いて



◆イラストの形状・詳細は、実物と異なる場合があります。

仕様

本体

商品番号	GWS18V-10C4 GWS18V-10C4H(本体のみ)	GWS18V-10SC4 GWS18V-10SC4H(本体のみ)
定格電圧	DC18V	DC18V
定格回転数	9000min ⁻¹ (回転/分)	9000min ⁻¹ (回転/分)
無負荷回転数	—	4500~9000min ⁻¹ (回転/分)
最大研削砥石径	100mm	100mm
スピンドルネジ呼び径	M10	M10
スピンドルネジ長さ	22mm	22mm
キックバック防止機構	●	●
再始動安全機構	●	●
速度設定	—	●
ブレーキ	●	●
質量 防振サイドハンドル装着時 (EPTA プロシージャ 01/2014 に準拠)	2.8kg ^{*4}	2.8kg ^{*4}
振動 3 軸合成値 研削(粗削り) サンディングディスクでの研削 (EN60745-2-3 規格に基づき測定)	6.0m/s ² 3.5m/s ²	6.0m/s ² 3.5m/s ²
充電可能周囲温度範囲	0℃~+45℃	0℃~+45℃
運転可能周囲温度範囲	-20℃~+50℃ ^{*5}	-20℃~+50℃ ^{*5}
保管可能周囲温度範囲	-20℃~+50℃	-20℃~+50℃

*4 8.0Ah/バッテリー装着時

*5 0℃以下の環境では、設計上の十分な能力を発揮できないことがあります。

つ本
製
い
品
てに

データ送信

Bluetooth®バージョン	Bluetooth® 4.2 (Low Energy)*6
信号間隔	8 秒
通信距離	最大 30m*7

- *6 転送先の携帯端末機器は、**Bluetooth®**との互換性がなければなりません。
コネクティビティチップ (GCY30-4)は、一般的なアクセスプロファイル (ジェネリック
アクセスプロファイル) (GAP)をサポートしています。
- *7 通信距離は、使用する受信機器を含む外部条件によって大きく変わる可能性が
あります。密室内や金属製の障害物 (壁、棚、箱など)があると、通信距離は著しく
短くなります。

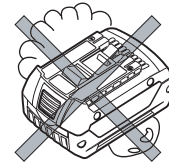
つ本
製
い
品
てに

使い方

バッテリーを準備する

● バッテリーを点検する


- バッテリーは弊社指定のものか？
- バッテリーから液漏れが発生していないか？
- バッテリー端子が傷んでいたり、汚れていたりしていないか？
- バッテリーは十分に充電されていて、消耗していないか？




● バッテリーを充電する

充電については、『充電器の取扱説明書』を併せてお読みください。

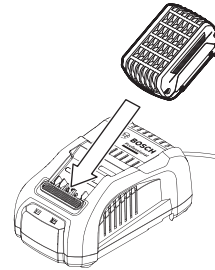
☞ リチウムイオンバッテリーは、バッテリーの寿命を縮めることなく、いつでも充電が可能です。充電を途中でやめてもバッテリーを傷めることはありません。

 **危険** ◆ 破損防止のため、弊社指定の充電器を使って、バッテリー④を充電してください。

 **警告** ◆ バッテリー④が熱くなっているときは、冷めてから充電してください。
◆ エンジン発電機・変圧器で充電器を使用しないでください。
◆ 電源に 100V が確実に供給されていることを確認してください。特に、延長ケーブルを使用するときは必ず事前に確認してください。
◆ バッテリー挿入口に異物が入らないよう注意してください。ショートの原因になります。

1. 充電器の電源プラグを電源コンセントに差し込みます。

2. 充電器にバッテリー④を差し込みます。
充電が始まります。
(『充電器の取扱説明書』参照)




3. 充電が終わったら、バッテリー④を充電器から抜きます。

4. 充電器の電源プラグを電源コンセントから抜きます。

- ☞ バッテリー④は、出荷時に多少充電されていますが、初めて使用される場合は、充電器でバッテリー④をフル充電し、完全に充電されたことを確認してください。
- ☞ 本機には、電子セル保護システム（ECP機能）がついております。本体が過負荷になった場合やバッテリー④が過放電または作業可能温度外になった場合、バッテリー保護のために本体が自動的に停止します。
- ☞ 電子セル保護システム（ECP機能）が作動して本体が自動的に停止したときは、必ず「メインスイッチ⑦」を“切”にしてください。
- ☞ 正しく充電しても使用能力が著しく低下するようになった場合は、バッテリー④の寿命が尽きたと考えられます。
新しいバッテリー④と交換してください。
- ☞ バッテリー④の残量（目安）は、ユーザーインターフェース③のバッテリー残量表示で知ることができます。（61ページ参照）


使
い
方

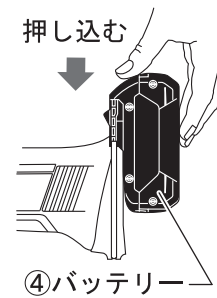
● バッテリーを取り付ける・取り外す


-  **警告** ◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、「メインスイッチ⑦」が“切”になっていることを確認してください。

取り付け

バッテリー④を、本体のバッテリー差し込み口に“カチッ”“カチッ”と2回音がするまで押し込みます。

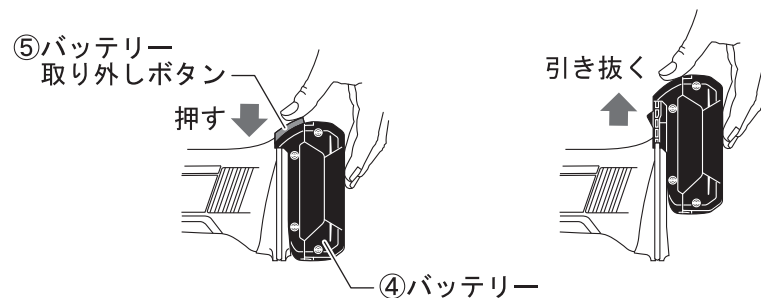
-  本機は、「バッテリー取り外しボタン⑤」が押されただけではバッテリー④が外れないよう、バッテリー④の取り付けが二重ロックになっています。



-  **注意** ◆ 不意の脱落を防ぐため、確実に固定されているか確認してください。

取り外し

「バッテリー取り外しボタン⑤」を押しながら、バッテリー④を引き抜きます。



作業前の準備をする

- 警告** ◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、作業前の準備をするときは、バッテリー④をディスクグラインダー本体から取り外してください。

● 保護カバーを取り付ける・取り外す

- 警告** ◆ 保護カバーは、安全のため必ず取り付けてください。

作業の種類により、保護カバーを付け替えてください。

研削砥石を使用する・・・・・・・・・・保護カバー⑬

切断砥石を使用する・・・・・・・・・・切断砥石用保護カバー⑩（別売）

ダイヤモンドホイールを使用する・・吸じんカバー⑮（別売）

取り付け

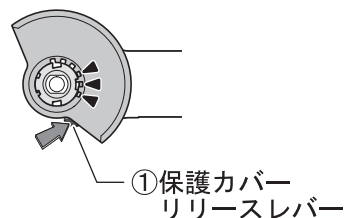
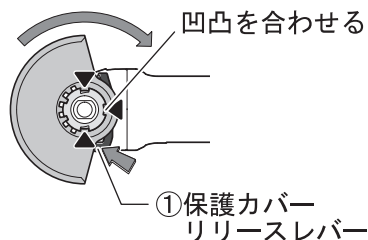
1. 保護カバーリリースレバー①をディスクグラインダー本体側に押し込み、保持します。

2. 保護カバー⑬の凸部をスピンドルカラー⑪の凹部に合わせます。

3. 保護カバー⑬の肩部がディスクグラインダー本体のフランジにしっかり当たるまで保護カバー⑬をスピンドルカラー⑪に押し付け、かみ合った音がはっきり聞こえるまで保護カバー⑬を回します。

4. 保護カバーリリースレバー①を押し込んだまま、保護カバー⑬を回転させ、作業者に火花が飛ばないに位置に調節します。

保護カバーリリースレバー①の赤いカムが、3つとも保護カバー⑬の切り欠きにかみ合うように保護カバー⑬を調節してください。



使
い
方

5. 保護カバーリリースレバー①を離します。
6. 保護カバー⑬が確実に取り付けられているか、確認します。

- ☞ 保護カバー⑬は、保護カバーリリースレバー①を押しているときだけ回ります。保護カバーリリースレバー①を押していないのに保護カバー⑬が回ってしまうときは、どんな状況であっても電動工具を使用せず、修理に出してください。
- ☞ 本機は、保護カバー⑬のキーによって、機種に合った保護カバーしか取り付けできないようになっています。

取り外し

1. 保護カバーリリースレバー①を本体側に押し込み、保持します。
2. 保護カバー⑬の凸部をスピンドルカラー⑪の凹部に合わせます。
3. 保護カバー⑬を取り外します。
4. 保護カバーリリースレバー①を離します。

使
い
方

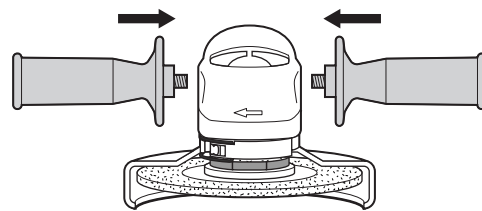
● サイドハンドルを取り付ける・取り外す

- ⚠ **注意** ◆ 防振サイドハンドル⑧は必ず取り付け、両手で作業してください。

防振サイドハンドル⑧は、左右2方向に取り付けが可能です。

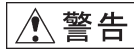
防振サイドハンドル⑧を右方向（時計方向）に回すとネジが締め、左方向（反時計方向）に回すと緩みます。

作業内容に応じて作業しやすい側に取り付けてください。



- ☞ 防振サイドハンドル⑧を取り付けると、振動を低減することができます。
- ☞ 防振サイドハンドル⑧を、改造しないでください。
- ☞ 防振サイドハンドル⑧が損傷しているときは、使用しないでください。

● 先端工具を取り付ける・取り外す



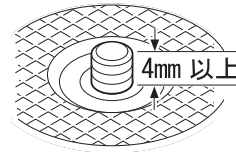
警告

- ◆ けがの発生を防ぐため、先端工具を取り付けたり取り外したりするときは、バッテリー④をディスクグラインダー本体から、取り外してください。





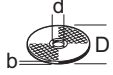


注意

- ◆ 先端工具を取り付けたり取り外したりするときは、手など身体を傷つけないように十分注意してください。
- ◆ 先端工具は、弊社指定のものを使用してください。
- ◆ スピンドル⑫と先端工具は常にきれいにしておいてください。
- ◆ 作業直後の先端工具は高温になります。冷たくなってから取り外してください。
- ◆ スピンドル⑫が回転しているときに、「スピンドルロックボタン②」を押さないでください。スピンドル⑫が回転しているときに押すと、ディスクグラインダー本体が損傷します。
- ◆ フランジ⑭と研削・切断ディスクを取り付けた後、スピンドル⑫は4mm以上出ている必要があります。
- ◆ 損傷している固定ナット⑯は、使用しないでください。



使
い
方

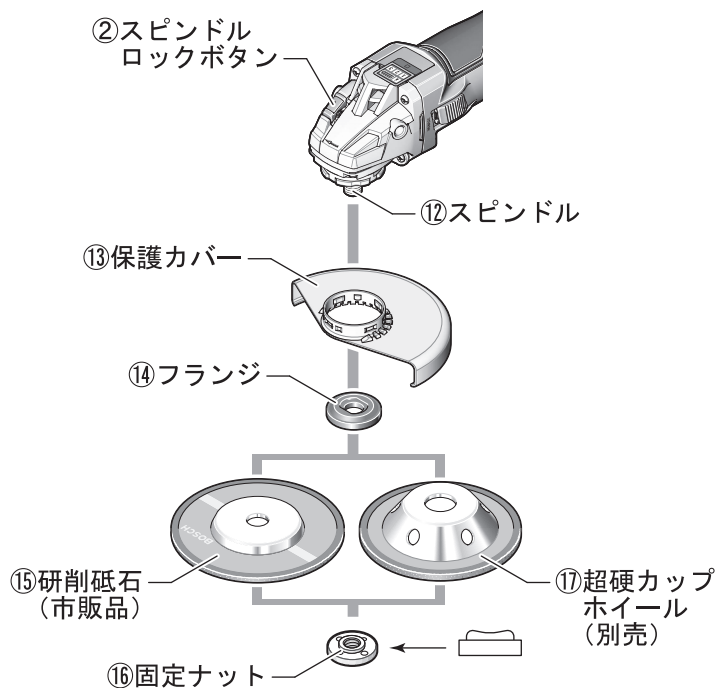
- 先端工具は本機の定格回転数(仕様参照)に適したものをご使用ください。

	D 最大(mm)	b 最大(mm)	d (mm)	 min ⁻¹	 m/s
	100	7	16	9000	80
	100	—	—	9000	80
	75	30	M10	9000	45

- 砥石は、寸法の合ったものを取り付けてください。
 径違い継手やアダプターは使用しないでください。

使
い
方

研削砥石（市販品）・超硬カップホイール（別売）

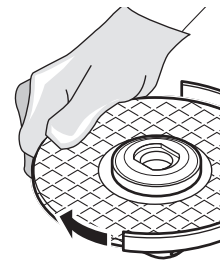


使
い
方

取り付け

1. 保護カバー⑬が確実に取り付けられているか確認します。
2. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑯を緩めて取り外します。
 - ☞ スピンドル⑫には「スピンドルロックボタン②」がかみ合う位置があります。「スピンドルロックボタン②」を押しながら固定ナット⑯を回し、スピンドル⑫が確実にロックする位置を探してください。スピンドル⑫がロックする位置では「スピンドルロックボタン②」が一段深く押し込めます。
 - ☞ スピンドル⑫がロックされていないと、固定ナット⑯は緩めることができません。
3. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
4. スピンドル⑫にフランジ⑭の凹がかみ合うようにはめ込まれているか確認します。

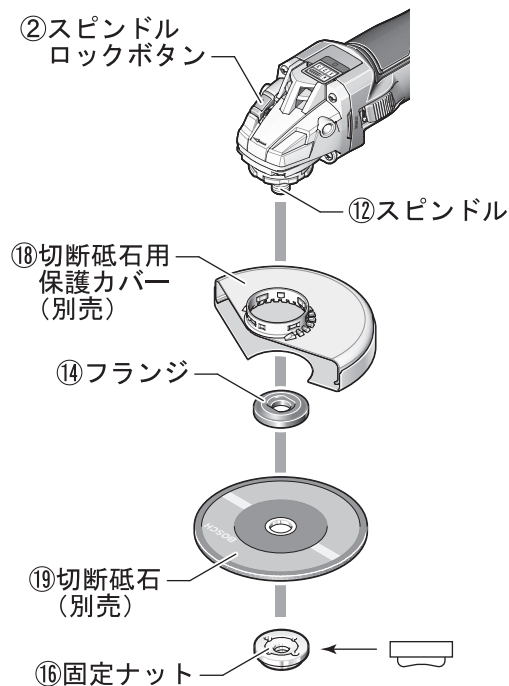
5. 研削砥石⑮または超硬カップホイール⑰の内径を、フランジ⑭の凸に合わせてはめ込みます。
6. 固定ナット⑯の凸を本体側（砥石側）に向け、スピンドル⑱にねじ込みます。
7. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナで固定ナット⑯を締めます。
☞ スピンドル⑱がロックされていないと、固定ナット⑯は締め付けることができません。
8. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
9. 研削砥石⑮または超硬カップホイール⑰が確実に取り付けられているか確認します。
研削砥石⑮または超硬カップホイール⑰を手で逆回転方向（ハウジングの回転方向⑩と逆方向）に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。
☞ 手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。
10. 研削砥石⑮または超硬カップホイール⑰が保護カバー⑬の内部に接触していないことを確認します。



取り外し

1. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑩を緩めて取り外します。
 - ☞ スピンドル⑫には「スピンドルロックボタン②」がかみ合う位置があります。「スピンドルロックボタン②」を押しながら固定ナット⑩を回し、スピンドル⑫が確実にロックする位置を探してください。スピンドル⑫がロックする位置では「スピンドルロックボタン②」が一段深く押し込めます。
 - ☞ スピンドル⑫がロックされていないと、固定ナット⑩は緩めることができません。
2. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
3. 研削砥石⑮または超硬カップホイール⑰を取り外します。
4. 固定ナット⑩をスピンドル⑫にねじ込みます。

切断砥石（別売）



使
い
方

取り付け

1. 切断砥石用保護カバー⑱（別売）が取り付けられているか確認します。他の保護カバーが取り付けられているときは、切断砥石用保護カバー⑱に交換してください。
2. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑰を緩めて取り外します。
3. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
4. スピンドル⑫にフランジ⑭の凹部がかみ合うようにはめ込まれているか確認します。
5. 切断砥石⑲（別売）の内径を、フランジ⑭の凸部に合わせてはめ込みます。

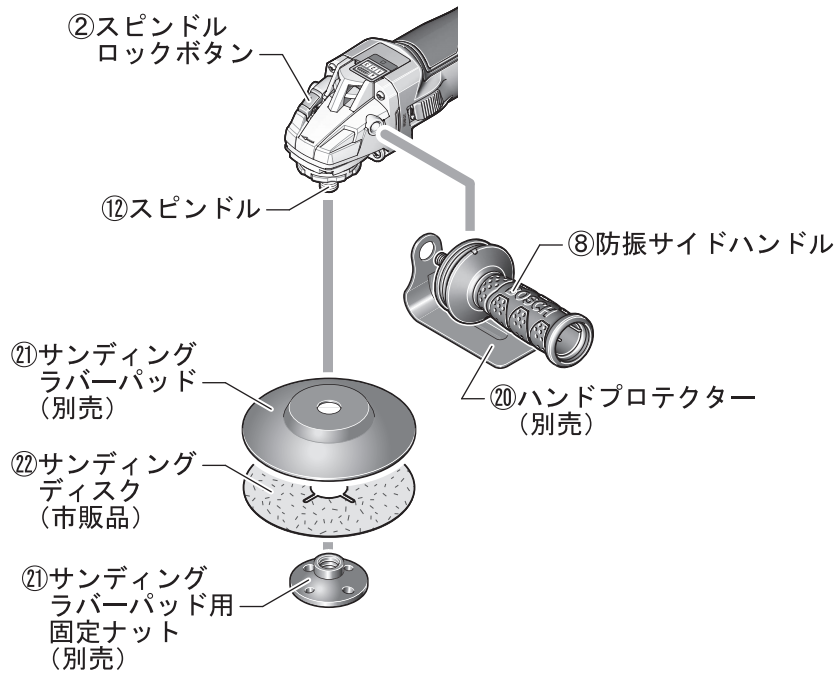
6. 固定ナット⑩の凹を本体側（砥石側）に向け、スピンドル⑫にねじ込みます。
7. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナで固定ナット⑩を締めます。
☞ スピンドル⑫がロックされていないと、固定ナット⑩は締め付けることができません。
8. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
9. 切断砥石⑬が確実に取り付けられているか確認します。
切断砥石⑬を手で逆回転方向（ハウジングの回転方向⑩と逆方向）に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。
☞ 切断砥石⑬を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。
10. 切断砥石⑬が切断砥石用保護カバー⑭の内部に接触していないことを確認します。

使
い
方

取り外し

1. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑩を緩めて取り外します。
2. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
3. 切断砥石⑬を取り外します。
4. 固定ナット⑩をスピンドル⑫にねじ込みます。


サンディングディスク (市販品)



使
い
方

取り付け

1. 保護カバーが取り付けられていないことを確認します。取り付けられているときは、外してください。
2. 防振サイドハンドル⑧を取り外します。
3. ハンドプロテクター㉒ (別売) を防振サイドハンドル⑧で本体に取り付けます。
ハンドプロテクター㉒と防振サイドハンドル⑧は、左右どちらにも取り付け可能です。
4. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナ (標準付属品) で固定ナット⑩を緩めて取り外します。
5. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
6. フランジ⑭を取り外します。

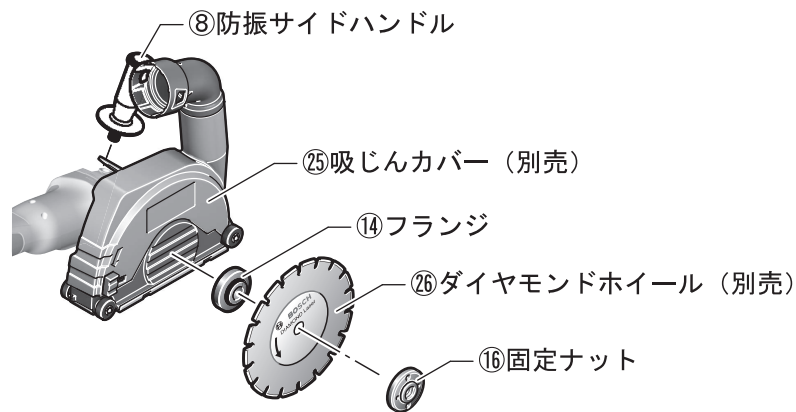
7. スピンドル⑫にサンディングラバーパッド⑳(別売)とサンディングディスク㉔(市販品)をはめ込みます。
8. サンディングラバーパッド用固定ナット㉑(サンディングラバーパッド⑳のセット品)の凸を本体側(サンディングラバーパッド側)に向け、スピンドル⑫にねじ込みます。
9. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナでサンディングラバーパッド用固定ナット㉑を締めます。
10. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
11. サンディングラバーパッド⑳とサンディングディスク㉔が確実に取り付けられているか確認します。
サンディングディスク㉔を手で逆回転方向(ハウジングの回転方向⑩と逆方向)に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。
 サンディングディスク㉔を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。

取り外し

1. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナ(標準付属品)でサンディングラバーパッド用固定ナット㉑を緩めて取り外します。
2. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
3. サンディングラバーパッド⑳とサンディングディスク㉔を取り外します。
4. スピンドル⑫にフランジ⑭をはめ込みます。
5. 固定ナット⑩をスピンドル⑫にねじ込みます。

ダイヤモンドホイール（別売）

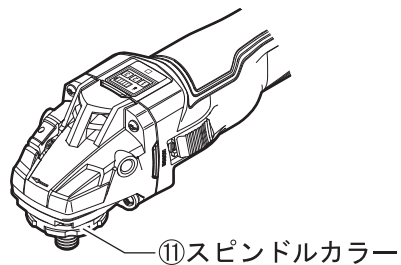
ここでは、吸じんカバー⑫を装着してダイヤモンドホイール⑭を使用する場合の取り付け・取り外し手順を記載しています。
保護カバー⑬を装着して使用する場合は、39ページ「研削砥石」の取り付け・取り外しを参照してください。



使
い
方

取り付け

1. 保護カバー⑬や先端工具を取り外します。
(35ページ「保護カバーを取り付ける・取り外す」、37ページ「先端工具を取り付ける・取り外す」参照)
2. 防振サイドハンドル⑧を取り外します。
3. 吸じんカバー⑫の凸部を、スピンドルカラー⑪の凹部に合わせて、はめ込みます。
4. 吸じんカバー⑫のサイドハンドル取り付け穴と、本体のサイドハンドル取り付け穴の位置を合わせ、防振サイドハンドル⑧を取り付けます。
5. 吸じんカバー⑫が本体に確実に取り付けられているか確認します。



6. スピンドル⑫にフランジ⑭の凹部がかみ合うように、フランジ⑭をはめ込みます。
ダイヤモンドホイール⑳の取り付け穴径が20mmの場合は、フランジ⑭を研削砥石の取り付けとは逆の向きで（うら返して）取り付けてください。
7. ダイヤモンドホイール⑳を、スピンドル⑫にはめ込みます。
 - ☞ ダイヤモンドホイール⑳の回転方向に注意してください。
 - ☞ ハウジングの回転方向⑩とダイヤモンドホイール⑳の矢印の向きが同じ方向になるようにはめ込んでください。
8. 固定ナット⑯の凹を本体側（ダイヤモンドホイール側）に向け、スピンドル⑫にねじ込みます。
9. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑯を締めます。
10. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
11. ダイヤモンドホイール⑳が確実に取り付けられているか、確認します。
ダイヤモンドホイール⑳を手で逆回転方向（ハウジングの回転方向⑩と逆方向）に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。
 - ☞ ダイヤモンドホイール⑳を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。
12. ダイヤモンドホイール⑳が吸じんカバー㉑の内部に接触していないことを確認します。

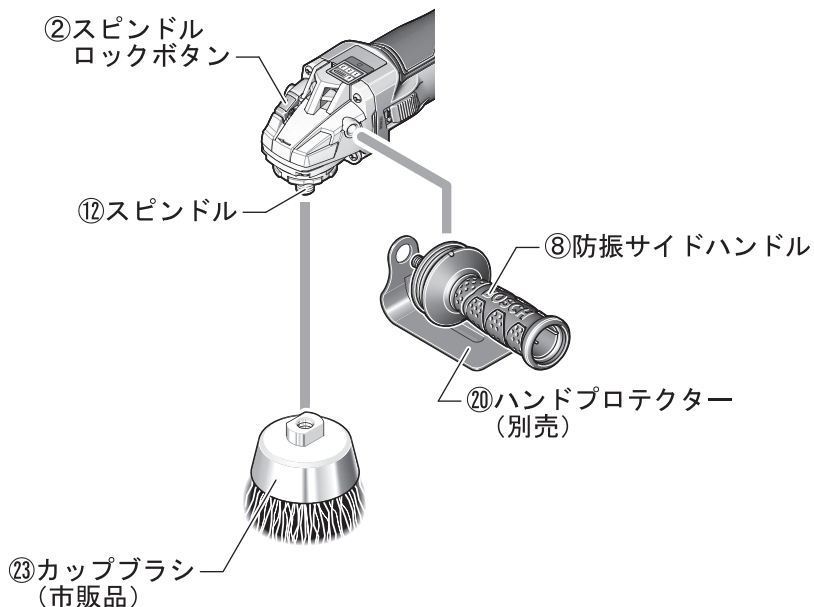
取り外し

1. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑩を緩めて取り外します。
2. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
3. ダイヤモンドホイール⑳を取り外します。
4. フランジ⑭を取り外します。
5. 防振サイドハンドル⑧を取り外します。
6. 吸じんカバー㉑を取り外します。
7. スピンドル⑫にフランジ⑭をはめ込みます。
8. 固定ナット⑩をスピンドル⑫にねじ込みます。

使
い
方

カップブラシ（市販品）

- 注意** ◆ カップブラシ⑳を使用するときは、必ずハンドプロテクター⑳（別売）を取り付けてください。



使
い
方

取り付け

1. 保護カバーが取り付けられていないことを確認します。取り付けられているときは、外してください。
2. 防振サイドハンドル⑧を取り外します。
3. ハンドプロテクター⑳（別売）を防振サイドハンドル⑧で本体に取り付けます。
ハンドプロテクター⑳と防振サイドハンドル⑧は、左右どちらにも取り付け可能です。
4. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑯を緩めて取り外します。
5. 「スピンドルロックボタン②」を離します。

6. フランジ⑭を取り外します。
7. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、スピンドル⑫にカップブラシ⑬をねじ込みます。

取り外し

1. 「スピンドルロックボタン②」を押しながら、カップブラシ⑬を緩めて取り外します。
2. 「スピンドルロックボタン②」を離します。
3. スピンドル⑫にフランジ⑭をはめ込みます。
4. 固定ナット⑯をスピンドル⑫にねじ込みます。

作業する



警告

- ◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、バッテリー④を取り付ける前に、「メインスイッチ⑦」が“切”になっていることを確認してください。



注意

- ◆ 必ず試運転作業を行い、砥石にヒビ割れがないことを確認してください。（労働安全衛生規則第118条）

※試運転時間

- ・ 砥石交換時 3分間以上
- ・ 作業開始時 1分間以上
- ◆ 加工物は、万力やクランプなどを利用して、しっかりと固定してください。
- ◆ 作業中は、回転が停止するような強い力で過負荷を与えないでください。
- ◆ 作業する前には、必ず先端工具を点検してください。ヒビ割れ、欠け、曲がりがある場合は、使用しないでください。
- ◆ 本機は乾式でのみご使用ください。
- ◆ 作業直後の先端工具は高温になります。やけどなどを負う恐れがありますので触れないでください。

使
い
方

本機には、Bluetooth®送信機“コネクティビティチップ GCY30-4”を装着することができます。取り扱いについては、『コネクティビティチップ GCY30-4』の取扱説明書をお読みください。

“コネクティビティチップ GCY30-4”を装着すると、専用アプリ「BOSCH Toolbox」をダウンロードした携帯端末機器と Bluetooth®により接続できます。

（専用アプリ「BOSCH Toolbox」は、Apple App Store、Google Play Store からダウンロードすることができます）

携帯端末機器を Bluetooth®接続が有効な状態にして、「BOSCH Toolbox」アプリを起動し、アプリ内の「My Tools」を開きます。

“コネクティビティチップ GCY30-4”とバッテリー④が装着された工具本体に携帯端末機器を近づけると、アプリが工具本体を認識します。

その後は、アプリの指示に従って接続作業を進めてください。

接続完了後、アプリでは工具本体の設定変更やバッテリー残量の状況確認等が行えます。

Bluetooth®のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG Inc. の登録商標であり、Robert Bosch Ltd. は商標使用の許諾を得てこれらを使用しています。

キックバック防止機構

本機には、キックバック防止機構（E R C機能）がついております。
作業中、キックバック現象*が発生する可能性を機械が感知した場合、モーターの回転を止めてキックバックを回避します。
この機構が作動した場合、LED ライト⑨が白く点滅し、ユーザーインターフェース③の状態表示ランプが赤く点滅してお知らせします。
再始動させるには、「メインスイッチ⑦」を“切”にし、再度“入”にしてください。

*キックバック現象

作業中、先端工具が材料に噛み込んで回転が止まったとき、その反動でモーターの回転方向とは逆に電動工具本体が振られる現象。

再始動安全機構

作業中にバッテリーが切れてしまった場合など、「メインスイッチ⑦」が“入”のままにバッテリーを交換しても、安全機構が作動し本機は始動しません。
この機構が作動した場合、ユーザーインターフェース③の状態表示ランプが赤く点滅してお知らせします。
再始動させるには、「メインスイッチ⑦」を“切”にし、再度“入”にしてください。

ドロップシャットダウン機構

電動工具が床に当たると、電動工具の作動が停止します。
この機構が作動した場合、ユーザーインターフェース③の状態表示ランプが赤く点滅してお知らせします。
再始動させるには、「メインスイッチ⑦」を“切”にし、再度“入”にしてください。

研磨・研削作業

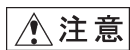
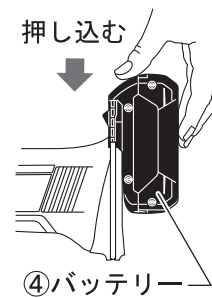


警告

- ◆ 保護カバーを取り付けて作業を行ってください。
- ◆ 研削火花を吸じんしないでください。

① 本体にバッテリー④を取り付ける

バッテリー④を、本体のバッテリー差し込み口に“カチッ”“カチッ”と2回音がするまで押し込みます。



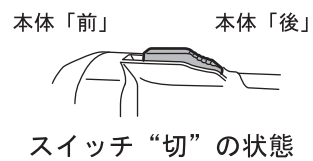
注意

- ◆ バッテリー④は二重ロックになっています。
- ◆ 不意の脱落を防ぐため、確実に固定されているか確認してください。

使
い
方

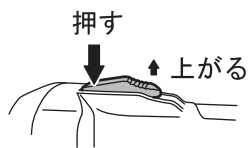
2 「メインスイッチ⑦」を“入”にする

1. 「メインスイッチ⑦」を本体の先端方向にスライドさせます。
→先端工具が回転します。



☞ この時点では「メインスイッチ⑦」は固定されていません。スイッチから指を離すと“切”の位置に戻り、回転が停止します。

2. 「メインスイッチ⑦」の先端を本体に押し込みます。
→スイッチが“入”に固定され、連続運転します。



☞ 「メインスイッチ⑦」は、研削砥石⑮が加工材等に当たらない位置で“入”にしてください。


3 回転数を設定する (SC・SCH型のみ)

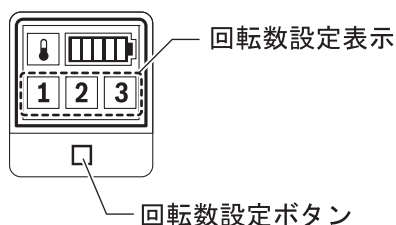
下記の商品は、ユーザーインターフェース③で回転数を設定することができます。

- GWS18V-10SC4
- GWS18V-10SC4H

回転数は、「回転数設定ボタン」を押して設定します。

「回転数設定ボタン」を押すたびに、回転数設定表示の点灯が切り替わります。

 回転数設定表示は、前回電源を切ったときの設定数が最初に点灯します。




下表の値は推奨値です。

材 料	作 業	アクセサリ	速度設定	回転数 GWS18V-10SC4 GWS18V-10SC4H
金 属	ブラシがけ、 さび落とし	カップブラシ	1	4500min ⁻¹ (回転/分)
	粗削り	研削砥石	3	9000min ⁻¹ (回転/分)
	切 断	切断砥石	3	9000min ⁻¹ (回転/分)
ステンレス	研 削	研磨ディスク ファイバーディスク	2	6000min ⁻¹ (回転/分)
れんが、石	切 断	ダイヤモンドホイール と吸じんカバー*	3	9000min ⁻¹ (回転/分)

* 切断砥石を使用するときは、切断砥石用保護カバーを使用してください。

 回転数は目安です。

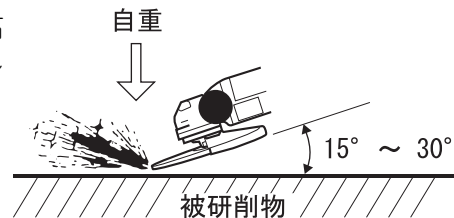
 先端工具の定格回転数は、仕様に記載されたディスクグラインダーの定格回転数と同等にしてください。

先端工具を定格回転数以上の速度で使用すると、破損して飛散する恐れがあります。

4 研削作業をする

☞ 作業は、回転が完全に上昇してから開始してください。

効率の良い研削作業をするには、砥石の全面を使用するのではなく、 $15^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 傾け、外周部分で行います。火花が一番多く出る状態が最適です。



☞ 押し付ける力は、ディスクグラインダー本体の重さだけで充分ですので、無理に押し付けしないでください。過度に荷重をかけると研削能力が低下するうえに、仕上げもきたなくなります。また、モーターの故障の原因にもなりますので注意してください。

☞ 本体に負荷がかかって熱くなったときは、最大回転で数分間無負荷で回転させて、冷ましてください。

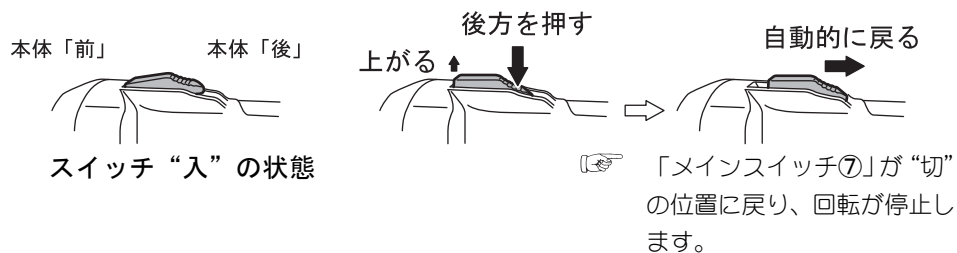
☞ 新しい研削砥石⑯の場合は、砥石の角が取れるまで、後方に引いて使用してください。前方に押しで使用すると、加工材に食い込むことがあります。

☞ ディスクグラインダー本体が帯電すると、電子制御装置によって電源が切れます。再起動させるには、「メインスイッチ⑦」を“切”にし、再度“入”にしてください。



使
い
方

5 「メインスイッチ⑦」を“切”にする

1. 「メインスイッチ⑦」の後方を押します。
→スイッチが“切”の位置に自動的に戻り、停止します。




タイル、コンクリートなどの溝入れ（ダイヤモンドホイール使用）

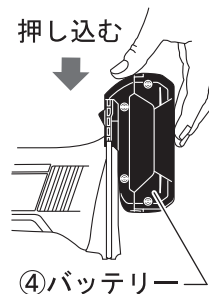
-  **警告**
- ◆ 吸じんカバー⑳（別売）を使用し、吸じんしながら作業を行ってください。
 - ◆ ハウジングの回転方向⑩とダイヤモンドホイール㉑の矢印の向きが同じ向きになっていることを確認してください。
 - ◆ モーター焼損の原因となりますので、1回の切り込み量は20mm以下にしてください。
 - ◆ 水、研削液などは使用しないでください。
-  **注意**
- ◆ 作業環境をクリーンに保ち、作業者の健康を守るため、吸じんカバー⑳を使用して吸じんシステムと接続し、粉じんを吸入してください。
 - ◆ 作業中は防じんマスクを着用してください。

 構造壁の溝加工については、国の法規に従ってください。

① 本体にバッテリー④を取り付ける


バッテリー④を、本体のバッテリー差し込み口に“カチッ”“カチッ”と2回音がするまで押し込みます。

-  **注意**
- ◆ バッテリー④は二重ロックになっています。
 - ◆ 不意の脱落を防ぐため、確実に固定されているか確認してください。



② 「メインスイッチ⑦」を“入”にする

(54 ページ「②「メインスイッチ⑦」を“入”にする」参照)

 吸じんカバー⑳のベースの先端を切断材料の上に乗せ、ダイヤモンドホイール㉑が材料に触れない位置で「メインスイッチ⑦」を入れてください。

③ 回転数を設定する (SC・SCH型のみ)

下記の商品は、ユーザーインターフェース③で回転数を設定することができます。

- ・GWS18V-10SC4
- ・GWS18V-10SC4H

回転数は、「回転数設定ボタン」を押して設定します。

(55 ページ「③回転数を設定する」参照)

④ 溝入れ作業をする

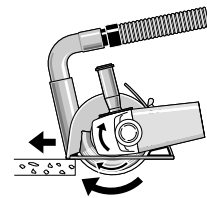
本体をしっかりと保持し、ダイヤモンドホイール⑳の回転が上昇したら、ゆっくりとまっすぐ前方へ押し進めてください。決して無理をせず、切り終えるまで同じペースで行ってください。

砂利の多いコンクリートなど、硬い材料を切断すると、ダイヤモンドホイール⑳が過熱して、損傷する恐れがあります。この状態は円形にスパークが飛ぶのではっきりわかります。

このような場合は切断を中断し、最高速で空転（無負荷運転）させ、ダイヤモンドホイール⑳を冷まします。

著しく進み具合が悪くなったり円形にスパークが飛んだりするときは、ダイヤモンドホイール⑳が切れなくなっています。研磨材（石灰砂レンガなど）を何回か切断しダイヤモンドホイール⑳を磨きます。

- ☞ 吸じんカバー㉕は、カバーの前方から吸じんを行います。本機を材料に対して垂直に接地し、適切なスピードで前方に押し進めて作業を行ってください。
- ☞ ディスクグラインダー本体が帯電すると、電子制御装置によって電源が切れます。再起動させるには、「メインスイッチ⑦」を“切”にし、再度“入”にしてください。



⑤ 「メインスイッチ⑦」を“切”にする

(56 ページ「⑤「メインスイッチ⑦」を“切”にする」参照)

金属類の切断（切断砥石使用）

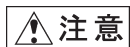
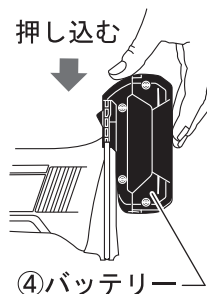


警告

- ◆ 水、切削液などは使用しないでください。
- ◆ 必ず切断砥石用保護カバー⑩（別売）を取り付けて作業を行ってください。
- ◆ 切断砥石以外の砥石での切断作業はしないでください。
- ◆ 切断火花を吸い込まないでください。

① 本体にバッテリー④を取り付ける

バッテリー④を、本体のバッテリー差し込み口に“カチッ”“カチッ”と2回音がするまで押し込みます。




注意

- ◆ バッテリー④は二重ロックになっています。
- ◆ 不意の脱落を防ぐため、確実に固定されているか確認してください。

使
い
方

② 「メインスイッチ⑦」を“入”にする

(54 ページ「②「メインスイッチ⑦」を“入”にする」参照)

 切断砥石⑨が切断材料に触れない位置で「メインスイッチ⑦」を入れてください。

3 回転数を設定する (SC・SCH型のみ)

下記の商品は、ユーザーインターフェース③で回転数を設定することができます。

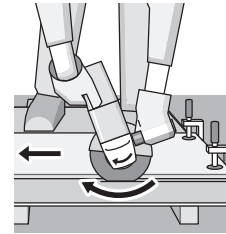
- GWS18V-10SC4
- GWS18V-10SC4H

回転数は、「回転数設定ボタン」を押して設定します。

(55 ページ「③回転数を設定する」参照)

4 切断作業をする

本体をしっかりと保持し、切断砥石⑱の回転が上昇したら、ゆっくりとまっすぐ前方へ押し進めてください。決して無理をせず、切り終わるまで同じペースで行ってください。



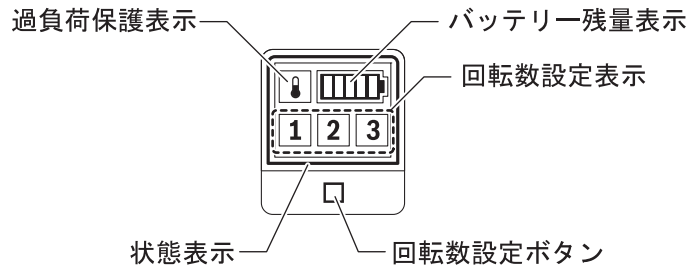
使
い
方

- ☞ ディスクグラインダー本体が帯電すると、電子制御装置によって電源が切れます。再起動させるには、「メインスイッチ⑦」を“切”にし、再度“入”にしてください。
- ☞ 切断時は切断する材料に合った適度な速さで本体を動かして作業してください。
- ☞ 切断砥石⑱に力を加えたり、ディスクグラインダー本体を傾けたり振動させたりしないでください。
- ☞ 側面から力をかけて切断砥石⑱の回転速度を下げないでください。
- ☞ ディスクグラインダー本体は、常に砥石の回転が抜ける方向に動かしてください。
- ☞ 輪郭や角材を切断するときは、断面の小さい箇所から切り始めるのが最適です。

5 「メインスイッチ⑦」を“切”にする

(56 ページ「⑤「メインスイッチ⑦」を“切”にする」参照)

ユーザーインターフェース③の表示



バッテリー残量表示

バッテリー残量表示	意味／原因	対処方法
緑 色	充電済み	—
黄 色	残量がほとんどない	交換または早めに充電する
赤 色	残量なし	交換または充電する

過負荷保護表示

過負荷保護表示	意味／原因	対処方法
黄色点灯	ディスクグラインダー本体が高温になった（モーター、電子部品、バッテリー）	ディスクグラインダー本体を最高速度で空転（無負荷運転）させて本体を冷ます
赤色点灯	ディスクグラインダー本体が過熱し電源が切れた	ディスクグラインダー本体を冷ます

使
い
方

状態表示

状態表示	意味/原因	対処方法
緑色点灯	異常なし	—
黄色点灯	ディスクグラインダー本体が高温になった バッテリー④の残量がほとんどない	ディスクグラインダー本体を最高速度で空転（無負荷運転）させて本体を冷ます バッテリー④を交換するか早めに充電する
赤色点灯	ディスクグラインダー本体が高温になった バッテリー④の残量がなくなった	ディスクグラインダー本体を最高速度で空転（無負荷運転）させて本体を冷ます バッテリー④を交換するか充電する
赤色点滅	「キックバック防止機構」「再始動安全機構」「ドロップシャットダウン機構」が作動した	「メインスイッチ⑦」を一度“切”にし、再度“入”にする
青色点滅	ディスクグラインダー本体が携帯端末機器と接続中、または設定値の転送中	—

使
い
方

ギアハウジングの角度を調節する

GWS18V-10C4・GWS18V-10C4Hのみ




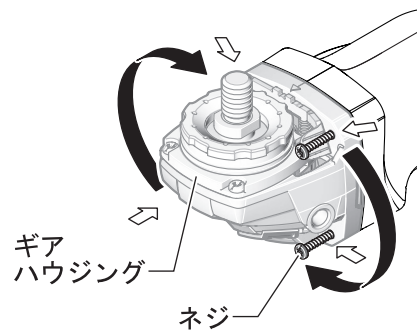
警告

◆ 危険防止のため、必ずバッテリー④を本体から取り外してください。

ギアハウジングの角度を調節することにより、どのような作業状態でも使いやすく、安全なポジションが得られます。

ギアハウジングは、90° ずつ4方向に向きを換えて固定できます。

1. 砥石、保護カバーなどを外します。
2. ギアハウジングを固定しているネジ（4本）を緩めて外します。
3. ギアハウジングを任意の方向に回します。
 ギアハウジングを本体から抜き取らないように注意してください。



使
い
方

4. ネジ（4本）を取り付けて締め、ギアハウジングを固定します。

困ったときは

故障かな?と思ったら

- ① 『取扱説明書』を読み直し、使い方に誤りがないか確かめます。
- ② 充電については、『充電器の取扱説明書』を読み直します。
- ③ 次の代表的な症状が当てはまるかどうか確かめます。

症 状	原 因	対 処
作動しない	バッテリー④が消耗している	バッテリー④を充電するか交換する
充電してもフル充電しない。または、フル充電しても作業時間が短い	バッテリー④が購入直後か、長時間使用していない バッテリー④の寿命が尽きた	バッテリー④を充電する バッテリー④を交換する

修理を依頼するときは

- ◆ 『故障かな?と思ったら』を読んでもご不明な点があるときは、お買い求めの販売店または弊社コールセンターフリーコールまでお尋ねください。
- ◆ 修理を依頼されるときは、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターにご相談ください。
- ◆ この製品は厳重な品質管理体制の下に製造されています。万一、本取扱説明書に書かれたとおり正しくお使いいただいたにもかかわらず、不具合（消耗部品を除きます）が発生した場合は、お買い求めの販売店または、ボッシュ電動工具サービスセンターまでご連絡ください。弊社で現品を点検・調査のうえ、対処させていただきます。お客様のご使用状況によって、修理費用を申し受ける場合があります。あらかじめご了承ください。

コールセンターフリーコール 0120-345-762

土・日・祝日を除く、午前9:00~午後5:30

※携帯電話からお掛けのお客様は、TEL. 03-5485-6161 をご利用ください。
コールセンターフリーコールのご利用はできませんのでご了承ください。

ボッシュ株式会社ホームページ <http://www.bosch.co.jp>

ボッシュ電動工具サービスセンター

〒355-0813 埼玉県比企郡滑川町月輪 1464 番地 4

TEL 0493-56-5030 FAX 0493-56-5032


ボッシュ電動工具サービスセンター西日本

〒811-0104 福岡県糟屋郡新宮町の野 741-1

TEL 092-963-3486 FAX 092-963-3407


困ったときは

お手入れと保管


-  **警告** ◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、バッテリー④をディスクグラインダー本体から取り外して、お手入れしてください。

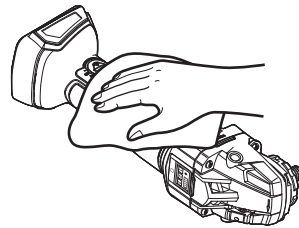
クリーニング

● 通風口などに付いたゴミ、ホコリを吹き飛ばす

 本体に切り粉やホコリがたまると故障の原因になります。

● 乾いた、柔らかい布で本体の汚れをふき取る

 変色の原因になるベンジンなど、溶剤を使わないでください。



● モーターを無負荷運転させる

保管

● ディスクグラインダーを使った後は、バッテリー④を取り外し、きちんと保管する

- 先端工具類（砥石など）は、本体から取り外しておく。
- 子供の手が届くところ、または錠が掛からないところに置かない。
- 風雨にさらされたり、湿度の高いところに置かない。
- 直射日光が当たったり、車中など高温になるところに置かない。特に、50℃以上になるところに置かない。
- ガソリンなど、引火性が高いものの近くに置かない。
- ショートを防ぐため、バッテリー端子に絶縁テープを貼ってください。

